第４３回　全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会北海道予選会

大会展望

１１月９日から１１日にかけてウィンターカップ北海道予選が行われる。参加は男女各２６校の計５２チーム。開催地は稚内市、メイン会場は稚内総合体育館。

男子

優勝争いはシード４校に旭川大学高校、東海大四高校を加えた６校となりそう。その中でも注目は第１シードの札幌日大。夏のインターハイでは３回戦に進出しベスト１６と、今大会№１の実力をもつチームであることは間違いがない。室蘭海星学院や函大有斗が札幌日大にどれだけ迫れるかに期待したい。第２シードの旭川工業は地区予選でインターハイ出場を果たした旭川大学高校を破って地区１位で今大会のシード権を得た。帯広白樺学園、大麻といった常連校にもチャンスはある。第３シードの恵庭南は札幌地区予選を制しての出場であり、決勝に進出する力は充分にある。同ブロック逆山の２回戦では旭川大学高校と札幌月寒の対戦が予想される。旭川大学高校が有利には間違いがないが、試合巧者な札幌月寒の戦い方が注目される。第４シードの釧路北陽は厳しい戦いが続く。２回戦での対戦が予想される東海大四は、シード校を倒し、その勢いでベスト４、さらにはその上をねらいたい。同ブロックでは、インターハイ全道３位の札幌工業、全道大会常連となりつつある北海道栄といった学校にもチャンスはある。

全国への切符は１枚、前評判どおり札幌日大が優勝するのか、それとも番狂わせはあるのか、熱戦に期待したい。

女子

優勝争いは札幌創成、札幌山の手の２校が軸となる。第１シードの札幌創成は予選免除での出場。札幌山の手は札幌予選を１位で通過、夏のリベンジを誓う。この２校に続くのは第３シードの室蘭海星学院。第４シードの札幌東商業。両校とも夏のインターハイ道予選で３位に入り、今大会で何とか決勝進出を狙いたい。シード校以外の注目校は、帯広南商業。順当に行けば準々決勝で札幌山の手との対戦となる。旭川勢は旭川明成、旭川藤の２校が出場。旭川明成は組み合わせにも恵まれず、両校とも初戦に勝利しても札幌創成、札幌東商業というシード校との対戦となる。

昨年の長岡（札幌山の手）のような突出したスターはおらず、その意味ではどのチームにもチャンスはある。チームとしての戦い方に注目したい。

平成２４年１０月３１日

北海道バスケットボール協会強化委員会